

## 議会報告会・意見交換会記録（第9回）

1 日 時 平成30年4月19日（木） 午後 7時00分 開会

2 場 所 大鹿交流館

3 出席委員 11名

議長（産業経済委員長）	植 木 茂	議 員	宮 澤 一 照
総務文教副委員長	阿 部 幸 夫	”	関 根 正 明
総務文教委員	村 越 洋 一	”	霜 鳥 榮 之
建設厚生副委員長	八 木 清 美	”	高 田 保 則
建設厚生委員	渡 辺 幹 衛	”	樗 沢 諭
産業経済委員長	小 嶋 正 彰		

4 欠席委員 0名

5 市民出席者 32名

6 事務局員 2名

局 長	岩 澤 正 明	係 長	堀 川 誠
-----	---------	-----	-------

7 件 名

議会報告会・意見交換会

- 1) 開 会
- 2) あいさつ 議会報告
- 3) 意見交換 「若い人が住みたい地域づくり」
- 4) 閉会あいさつ
- 5) 閉 会

1. 開 会

○司会（阿部幸夫） 皆さん、こんばんは。時間になりましたので、議会報告会、意見交換会を始めさせていただきます。本日は平日の木曜日、そして夕食時やお仕事でお疲れの所このようにたくさんの人から、お集まりいただき、心から感謝申し上げます。妙高市議会では、平成27年3月に制定されました、議会基本条例に基づきまして、開かれた議会を推進する取り組みの1つとして、議会報告会・意見交換会を開催しております。

ことは、昨日18日から、本日の19日、25日の3日間、旧新井、妙高、妙高高原の3つの地域で開催してまいります。本日は担当委員6人と、運営員補助5名で進めさせていただきます。最初に、担当議員の6名の自己紹介をさせていただきます。一人ずつ、所属委員会と氏名をお願いします。村越委員

○総務文教委員（村越洋一） 総務文教委員会の村越でございます。よろしくお願いします。

○産業経済委員（小嶋正彰） 産業経済委員会委員長を仰せつかっております、小嶋でございます。よろしくお願いします。

○建設厚生委員（八木清美） みなさんこんばんは建設厚生委員会に所属しております八木清美と申します。よろしくお願いします。

○建設厚生委員（渡辺幹衛） 建設厚生員会に属しております渡辺幹衛です。よろしくお願いします。

○司会（阿部幸夫） 総務文教委員本日の司会を担当します阿部と申します。よろしくお願いします。開会にあたってお願いがございます。議会報告会、意見交換会につきましては後日、会議録の作成をしていきます。参加者の皆さんの個人名は公開されませんが、質疑や意見交換における皆さんや議員の発言につきましては、議会録としてホームページに公開させていただきますので、御承知願いたいと思います。また、質疑や意見交換で発言される場合には、最初にお住まいの地区名とお名前から発言くださいますようお願いいたします。この会が終わりましたら、アンケートに御協力を宜しく願います。

それでは、ただいまから、議会報告会、意見交換会を開催いたします。お手元に配付いたしましたレジメに沿って進めさせていただきます。

---

## 2. あいさつ 議会報告

○司会（阿部幸夫） はじめに、植木議長から御挨拶、議会報告をいたします。お願いします。

○議長（植木茂） 皆さんこんばんは、議長を仰せつかっております植木でございます。よろしくお願いします。本日は、大変お忙しい中、私どもの議会報告会、意見交換会に御参加いただきまして、大変ありがとうございます。日頃より、本市議会に対し、御指導、御協力をいただいただきまして、あたたかく見守っていただき心より御礼申し上げます。ありがとうございます。私のほうから、今回の開催の主旨、目的をお話させていただきます。市民の皆さんへの説明責任と信頼関係を確保するために、皆様方に対し直接議会報告会と意見交換会という機会を設けさせていただきました。いただいた意見を市長、執行部機関に伝えるだけでなく、議会の活動につなげてまいりと思っておりますので、よろしくお願いします。また、まちづくりの政策決定過程への市民参加がこれからは重要になってくると思っております。安心して住みやすい妙高市に導くため、皆様方の御意見を議会に対して活かして行政に対して意見を行っていきたく思います。よろしくお願いします。

それでは、3月定例会で審議いたしました、平成30年の予算、主要事業の概要や質疑等について簡単に説明させていただきます。皆さま方のお手元にA3の資料があると思いますが、開いてください。なお、中にデータ化された1枚ものの資料があると思いますが、データは人口の推移、市の借金、貯金の資料となっています。参考資料としてごらんください。見開きの平成30年の予算・主要事業の概要をごらんください。平成30年度の方針について、今回市長から大きく5つの方針により取り組みむと説明がありました。「方針1 新しい価値を創造するまち・ひと・しごとづくり」「方針2 世界に選ばれる観光先進地MYOKOの推進」、「方針3 人・地域と一緒に健康長寿のまちづくりの推進」、「方針4 支え合いの強化と未来につながる地域協働の推進」、「方針5 賑わいと活力を与える持続可能な地域基盤の整備」を掲げております。この5つの方針のもと、重点プロジェクトを中心とした実効性の高い施策を展開し、行政運営に関わる全ての皆様の協働により、未来を見据えたまちづくりを進めたいとのことでした。

妙高地域に関しては、特に方針2における、都市と農村交流推進事業、方針4における、地域のこし協力隊の配置拡大に取り組みであります。

市長からの予算の概要説明を受け、議員が質疑などを行ないました。資料右ページの中ほどにあります、方針5の欄にマル2つ目の道の駅あらい整備事業について、3億以上、事業費も高額であり、質問、質疑が多数行われました。

道の駅あらいの拡充の必要性について、市長は既存の道の駅における駐車場不足や農産物直売所の売り場面積の不足などの課題への対応を図るため、既存エリア内での用地確保が困難なことから、計画地での拡張を行うとの答

弁をなされました。

また常任委員会においては、この地域に係る予算審議では大鹿地区、原通地区で受け入れいただいている農家民泊の質疑が行われました。農家民泊の届け出件数、受け入れ可能人数の状況や今後についてはどのようなか。との質問に対し、農林課長は、29年度の受け入れ協力家庭は民宿、民泊併せて102件、おおむね400人であると。大規模校の受け入れは1学年300名規模であり、今後150件、600名の受け入れを目標に体制を整備をしていく。との答弁がなされました。

このほかにも予算が有効に使われ、市民生活の向上につながるよう、多くの質疑等を行っております。時間の都合もあり、雑駁な説明であります。以上であいさつ、議会報告とさせていただきます。本日はよろしく願いいたします。

---

### 3. 意見交換 「若い人が住みたい地域づくり」

○司会（阿部幸夫） ありがとうございます。次に意見交換に入る前に本日常任委員長の小嶋議員から発言を求められておりますので、許可し発言をお願いします。

○産業経済委員（小嶋正彰） 小嶋でございます。今回この大鹿の会場の設営にあたりまして、リーダーを仰せつかりまして、どういうふうにしたらいいんだろうかということで、実はこちらの山田会長様に相談させていただきました。おかげさまをもちまして、このように多くの皆様からお集まりいただき本当に感謝申し上げます。ありがとうございます。会長様の方から、ついでは大鹿地区の現状について共通の理解をえられるといいねということで、お手元に会長様の方からつくっていただいているところです。こちらについて若干会長様の方から御説明をいただくということで、そこから意見交換をスタートしてはどうかと思います。どうぞよろしくお願いします。

○司会（阿部幸夫） それでは、山田自治会長、前の方をお願いします。

○自治会長 こんばんは、貴重な時間をいただきまして、大変恐縮です。小嶋議員さんの方から話がありまして、簡単に説明をさせていただきます。資料を見ていただきまして、まず大鹿地区の現状ですが、人口の状況は昨年12月31日現在の状況でございます。これにつきましては市役所からいただいた統計資料でございます。総人口ですが395人。男女の内訳については記載の通りです。（1）人口の推移は、右側を見ていただければと思います。昭和47年に888人。現在が395人に減少している状況です。大半は、多分上越市その他への提出となります。世帯主の死亡が原因ではないかなと思います。それから（2）世帯数については、約3割の減少で、世帯の実態は、単身高齢者世帯、夫婦二人だけの少人数世帯という状況です。今後ますますそのような状況が続くと思います。3の段階別人口の現状ですが、グラフの通り65歳以上の年齢が圧倒的に多く、高齢化率ですが43.3%です。妙高市の高齢化率を確認する予定だったんですが、時間がなくておいでの委員さんは知っていると思いますが、いずれにしても43.3%よりは、おそらく少ない。今後の高齢化率の上昇については、さらに懸念されるのではないかなと思われま。次に裏面になります。4については後でござんいただきたいと思ひます。裏面の下段につきましては、国の機関による妙高市の将来人口の推計と年少人口の推計です。割愛しますが、参考までですが、妙高小学校にことし入学した新一年生は15人です。そのうち大鹿からの入学児童は1名ということです。来年は0人というふう聞いております。再来年は1名ということで、このような状況です。もうちょっと子供が大勢いけばいいなという思いでいっぱいです。以上です。

○司会（阿部幸夫） はいありがとうございます。コンパクトにまとめていただきました。それでは意見交換に入っていきたいというふうに思ひます。各会場ではテーマを設定してまいりました。こちらの妙高地区においては、テーマは、今ほど人口関係の話がありましたが、若い人が住みたい地域づくりとしております。皆さんが思っていること等御意見などございましたら、挙手をして最初に地区とお名前を述べてから発言をお願いしたいと思います。御質問の

ある方は元気よく、お腹空いてるとかもしれませんが、元気よく手をあげてお願いしたいと思います。よろしくお願ひします。

○市内男性A ○○地区の○○でございます。きょうのテーマもちろんそうですが、一般的な話は後ほど質問させていただきたいと思ひます。今の太鹿地区の現況を見まして、日本全体の大きな流れ、また新潟県妙高市の大きい流れの中で推移してきたと思ひます。いたしかたない面も多々あると思ひのですが、私共にも責任があると思ひますが、やはり10年15年ぐらゐ前に人口減少の実態を予測できたじゃないかというふうに思ひます。さりとて手遅れと言つて仕方がないと言ひわけにはいかない。人口減少の中の大きな問題は、結婚の問題がやはりテーマになると思ひます。それが1つと、若い人たちが働く人場所、今人口減少ということで今同じような問題を抱えていると思ひますが、働く場所と結婚これがセットになって、やはりこの地に住み着いて子供を育てていくことで、人口の減少も少しではあるが減り方が変わってくるだろうと思ひています。結婚の問題については、以前は大きな家庭の中で近所のおばさんなど世話焼きがあつたと思ひんですが、今は個人のプライバシーの問題もあり、なかなか近所の人達や知り合ひが世話をするということがない。市としても結婚相談員とか、JAでも結婚相談員とか来ているわけですが、なかなか数字が見えてこないということだと思ひます。そういうことで、人口減少の問題をどういうふうに捉えて手を打つのかということだと思ひます。内側から攻めるのか、移住者をふやすのかという議論があると思ひます。移住者を増やしたとしてもそれだけの環境を整備できるかどうか。市の予算の中にも、移住者の担当のお話がある。私の提案としては、財政が許すのであれば右並びじゃなくて、妙高市独自の奇抜なアイデアとみんなの知恵を結集して、そこに人間も予算も投入する。少々ほかの予算が減つてでもですね、これを貫き通すんだという堅い決意のもとに体制づくり、人員もそうですし予算的な問題もそうですし、そういうふうな手が打てないかどうか、このまんまで行けば、しょうないわねとの話で終わる可能性が十分あると思ひますね。後ほどここで住む生活基盤についても質問したいと思ひますが、今の人口問題について私はそういう考え方を持っています。皆さんからいろいろな知恵を出して方向づけができないかと思ひています。

○司会(阿部幸夫) 今の御質問・提案もいただきましたが、本日前の方に所管のみなさんがおりますので婚活の状況、結婚関係についてどのようになっているか、若い人たちの働く場所、今日の妙高市はどのような状況なのか、それぞれの所管の皆様から答えていただきたいと思ひます。よろしくお願ひします。

○総務文教委員(村越洋一) 私からよろしくお願ひいたします。○○さんから御意見いただきまして最もだなあと思ひます。もっと早く気づけばという話があつたのですが、人口が減つていくという中で、当然これは少なくなるとわかつたわけです。ただそれがこのように明るみになつたというか、だんだんこういうふうに、みなさんの目に出るようになったのは、人口ビジョンというものをつくろうと、地方創生の中でデータのなものが出されて、ようやく右肩下りの図を見せられて、これは減つていくんだなと実感できたということじゃないかなと思ひます。国としてですね、出てきたことで、皆さんの気持ちがようやくそういうふうに向いてきたんじゃないかなと思ひます。人口減少といつても、人口というのは最初に人類が生まれた時は、ものすごく少なかつたわけです。今の日本の人口は一億二千万ということですが、明治維新の頃は3300万人しかいなかった。今の1/4ということになる。それから一気に人口がふえた。だからある程度ピークにいったところで急激に落ちていくという状態になっている。それじゃあどんどん減つて0になるかと言ひとそういうわけではない。ある程度のところで下げ止まるんじゃないかというふうに言われている。じゃあどれくらいの人数が適当なのかということだが、専門家の中にはこういう風に言われている。小学校区で100人くらいを維持できるくらいと言ひされている。そうすると今妙高小で110人少しいるので、今の現状を何とか頑張つて維持していくというところが、ひとつの目安になっていくんじゃないかなと思ひます。とはいへ右肩下りでどんどん減つていくわけですから、きょうのテーマである若者をどうしたらいいか、

それから先ほどお話しがあった、婚活の問題ですとか、働く場所ですとか、そういったところがきょうの議論の対象になってくるのではないかと思います。そこで結婚の問題婚活の問題、そういった政策に関して、妙高市も実際に取り組んでおりますし、働く場所に関しても取り組んでおります。全然やってないわけではない。ただどこまで効果があるかというところになってくる。きょうまたじっくりと、一番最初のところでいろんな話が出たので、細かいところまでお話できないんですが、私の感じとしては、ともかく人口減少の中で、大きな流れがあって、ある程度下がるというのはもう周知の事実として考えていかななくてはならない、との大前提のところ感想も含めお話をしました。

○産業経済委員（小嶋正彰） 働く場の関係は、若い人たちにとって重要な問題と思っている。人手不足になっている。

4、5年前から比べると、様変わりなんですけども、人手不足になっている。ただ若い人たちが働きたいという希望と、現実求人している企業とのミスマッチと言うものが非常に大きい。妙高市内においても介護だとかサービス業などが非常に求人が多い。製造業だとかそういうものは少ない、そういうことになっています。私は昭和29年生まれですが、その頃は長男だからということで、ここで近くのところ勤めるとかという話だったが、今は子供達の高学歴化だとかで、なかなか自分が働きたいという部分が地元にはないというのが大きな問題と思っている。ただ特に製造業なんかには、妙高市どころか海外に出て行く状況が普通にあるわけですし、なかなか企業誘致も進んでいるがここ何年かは成果が上がっていない。これもまた大きな国全体の流れかなと思っております。地域の産業自体も若い人たちが働ける構造改革が必要であると思っています。妙高市は農業と観光とずっと言われています。農業に関して言えば若い人たちが、働いていけるような、例えば法人経営とか、子育てしていけるような所得を確保できる。あるいは働きがい、消費者と直接顔が見えて喜ばれる農業というものにしていく。あるいは観光にしても、今外国からのお客様がふえているが 妙高市では DMO をということで、観光推進協議会を立ち上げ観光だけでなく他産業を含め、地域全体の魅力アップをしていく必要があるんじゃないか。このような取り組みを進めているところです。いずれにしても特効薬はなかなかない。総合的に知恵を出し合って進めていかなければならないということが現実かなと思っております。

○司会（阿部幸夫） 今婚活なり若い人たちが働く場所という質問に対して委員から説明がありました。

○建設厚生委員（八木清美） 今ほど婚活についての御質問がありましたけども、私も個人的な活動の中で、婚活についてのいろいろな活動はさせていただいているんですが、実際にお聞きしながら会っていただいたりしているが、皆さんお聞きするのは、35過ぎてから女性が残念なんですけど、40くらいになると言いにくいんですが、男性からすると40ぐらいの女性はちょっと子供を産むことからすると厳しいということで、35までの方をというのをよくお聞きします。やはり婚活をするのであれば20代からそのような意識を持っていい人を積極的に探す必要があるのかなと、最近つくづくそう考えているところです。市でも婚活イベント等をやっているんですが、5組程度が今までに整ったということで聞いている。なかなか難しいのが現状と考えております。雇用については産業政策監が動いてくださって、いろいろと工場誘致などで探したんですが、なかなか結果が見えなかったのが現状です。聞くところによると妙高市にも大きな工場がということでいたんだけど、雪がネックで上越市の方に工場が建ってしまったということも聞いて、残念だなあとということで、雪がネックだということを知っております。先般の議会ではでも高田議員から 学校の誘致について質問がありましたが、学校についても考えていることがあってまだ正式には聞いていないが、明るい話題だなということで今期待しています。

○司会（阿部幸夫） 私の方で今いろいろと具体的な説明があったわけですが、集中と選択という言葉に集約されてくるのかなそして投資なのかなと、思いますが、皆さんの方から引き続き関連して、人口対策を含めてほかの質問があるよという方がおられましたら挙手をお願いします。

○市内男性 妙高市は、住みよさランキング上位とお聞きしております。私の周囲の方が転居しましたら、そういう通知をもらうと、新井とかそういうところではなく大体上越です。住みよさなら上越市じゃなく妙高でいいんじゃないかなと思うが、どこにさっき八木さんの方から話があったが、雪国ということで非常にそれがネックになっていると思います。人口をふやすには絶対数が現実には少ないわけです。子供を産み育てる年齢というのは決まっています、五十、六十代に産み育てるというのは無理で、さっき前段で質問があった市の単独事業でもうちょっと大胆にやってもいいんじゃないかなと、国の後追いじゃなくて、いろんな施策を妙高市はあんなことをやっている素晴らしいねという形の、単独事業をどんどんやってもらいたい。今子供はだいたい夫婦で二人ぐらい。三人目を産んでみようかなと思う政策をやったらどうかと思います。

○司会（阿部幸夫） 今大胆な独自の要素で取り組んではどうかというお話がありました各所管の皆さんどうでしょうか。

○総務文教委員(村越洋一) 今住みよさランキングというお話から始まって、住みよさランキングに関しては統計上の数字によって出てくる。そうすると住民感情がなかなか反映されているわけではない。順位はいいけれど私らそんな思いはないよね、という声は多くの皆さんが思っている通りだと思います。毎年毎年住みよさランキングが上がったとか下がったとかが出たり、妙高市としても非常にいいランキングが入っているが、その中身を検証する前に、住民それぞれの皆さん方が住みよいかどうか満足できることの方が大事じゃないかなというふうに統計について、感じている。その中で先ほど、妙高市単独事業を進めて行けばどうかという話で、司会の方からあったんですけども、選択と集中というのが今行政の方で言われている。おしなべて、全てのものに予算を配分するというのではなく、ここは何とかかなりそうだとした政策の中で、芽が出てきそうな部分に集中して予算をつけるというふうな流れはある。またそのようにすることです。そこでじゃあ行政の方でその政策を出してもらえばいいわけですが、なかなかそういったものも見えにくい部分もある。全然やってないわけではなく先ほどのDMOであるとかCCRCという生涯活躍のまちというふうなものですか、そういったものでこれ際立ったものもやり始めてはいるんですが、なかなか分かりにくい部分もあると思うんです。なおかつ成果が出ていない部分で、市民の皆さんが実感できない部分であると思います。この30年度から行政の中で少し変わった部分があります。今まで生涯学習課になった地域づくりの活動の部分で、総務課の方と一緒にして、総合交付金というものを新たにつくったということがあります。今までは地域づくり活動交付金ということで、使っていたものが一本化してさらに使いやすくなったということがあります。皆さん方が使えるものとしては地域の元気づくり活動助成事業があります。近いところでは原通の皆さん方が5年位前にその補助金を使って活動されたということがあります。これからは元気のある地域が声を出してそこに集中的に予算・補助金が配分されるという形がある。それが全てではないが、やはり地域の中で意思決定をひとつにして、何か新しいものを進めていくそういう風なものを出していくことが大事じゃないかなと思います。

○司会（阿部幸夫） 今ほど説明がありましたが、人口を含めて同じような話になっているので、視点を少し変えて、実は人口を含めての部分では、皆さんのところでは移住定住ということで、外からこの大鹿にレストランをつくるという新しいスタートを切られたという話も私ども聞いて「新しい流れだな。」と思いましたし、もう一つは大学のゼミがきて色んな事を皆さんと話し合いをして、この地域を活性化しようではないかという話を新聞等をみさせていただいている。具体的な地域の視点で、皆さんも人口とか若い人の定住だとか、これから皆さんも含めて大学生の皆さんとどういった形を描いているのか、また、議員に聞いてみたいことがあれば、少しお伺いしたいと思います。いかがでしょうか。

○市内男性B ○○の○○と申します。今大学生の力を活かした集落活性化事業についてのお話かと思えます。それに

ついて説明したいと思います。分かっていれば資料等をつくってきたんですが、口頭で簡単に説明させていただきます。これは新潟県の事業で、過疎化に悩む集落を大学生の若い発想と専門知識を持って、集落に入って、外から見た目で活性化できることがないかということで、調査研究をして提案するという事業です。毎年募集しているんですが、新規集落8集落、2年目の継続というのが4集落ということで、枠を県が持っています。大鹿も先ほど山田会長から説明があった通り、人口減少が進んでいて、段階年齢別の人口を見ても10年後20年後30年後どうなるか、大体予想できる。大体20数年後の大鹿の集落は現在の豊葦地区の姿になると予想ができる。数十年後には集落が消滅する危機がある。人口減少の波が、今までは緩やかに来たんですが、1000人ぐらいあった人口がいきなり400人となれば、すぐ目に見えて何とかしなければとなるんですが、じわじわときているもので、なかなか地区民もすぐに何かしなければという意識がないんです。そこで考えてもらうと、何をしたいか分かりませんし、県の事業に手を上げて何とか採択していただいて、新潟県が全国の大学に募集をかけてマッチングして、日本大学と新潟国際情報大学がペアで大鹿に入ってきてくれました。それで平成28・29年度大鹿集落に入ってきてもらいました。顔合わせをして集落の人と意見交換をして、どうしたらいいかをまたフィールド調査と空き家をうまくいかせないとか、農産物とか生かして都市との交流の促進ができないとか、学生に与えたテーマはまず大鹿を知ってもらう仕組み、大鹿に足を運んでもらう仕組み、足を運んでもらったら繰り返し来てもらうような仕掛け、そして大鹿を好きになってもらって住みたくなくなって、大鹿に住むとそういうものと考えてくださいとのテーマを与えた。ただテーマが大きすぎたということもあり、ちょっと焦点ぼけというのが実際のところであります。今まで人口減少について集落で話し合いの場はなかった。他人ごとと言いますか、なかなか頭の中ではわかっているんですが、なかなか、何とかしようということにはなかった。これを機会にこれを考えてみようとする姿も見せながら考える中で何をやるか誰がやるか、地元の地区民がするしか仕方がない、大学生の提案の中で空き家を生かして、都市との交流の拠点づくりセンター的な機能を持たせてそういう提案もあった。そうすると地区民の中でもなかなか人材がないということで、専門的な能力を持った人も必要ですねという話もあって、協力隊の予算も計上していただいた。簡単ですが説明いたします。

○司会（阿部幸夫） 今協力隊の話もあったが、それぞれ所管の方で協力隊の状況について、議会の方から報告をお願いしたいと思います。

○総務文教委員（村越洋一） 私の方から地域のこし協力隊、妙高市では地域のこし協力隊、全国的には地域おこし協力隊と言われてます。その実績の方をお話しさせていただきます。平成29年度全国の中で自治体として1000。予想5000人の地域おこし協力隊が全国に入っているということだそうです。実績としては今右肩上がりです。実績としては今右肩上がりです。始まったのが平成12年というところだと思いますが、その頃はかなり少ない人数が、毎年毎年1000人規模でふえながら、今現在もふえているという状況である。その中でやはり協力隊に求めるものは、3年間いた後に地域に根を下ろしてもらいたいというのが、協力隊に望みたいということで、全国的な実績としては、6割の協力隊が定住をしているということだそうです。その中でも、そんな形で定住しているかというところ、就業しているがその中の50%。自らが起業している方が3割ぐらい。自分で新たな仕事をつくるというよりは、まずは地元で就職して6割の方が地元に残っているということです。妙高市で言うと今までに平丸と水原地区に2名ずつ4名。その後に平丸1名入られました。現在長澤に1名、水原地区に1名、瑞穂地区に1名そうすると8名になる。その中で途中でやめられた方もいます。今現在は3名の協力隊が残って活動をしているということです。何名の方が定住しているかと言うと今は0人ということになります。この春に定住していた方が地元に戻られるということと、残念ですが思い半ばにして亡くなられた方もいらっしゃいます。交通事故だったのですが、そういうことで、妙高市として結果的には0名という定住になっているのが現状である。参考までに若い人たちがどんな形で地域に残りたいと思っ

ているかと言うと、参考事例としてお話すると起業して残っている方が3割ということでどういった職種についているかと言うと、飲食サービス古民家カフェ農民レストラン。小売業としてパン屋さん、鮮魚の移動販売山菜の通信販売とか。宿泊としてゲストハウスいわゆる民泊的なものそういったもの。まちづくり支援業ということで集落支援とか観光そういったものについているということです。後、就職された方は観光関係地域づくり関係と言った方が多い、やはり既存の企業に就職するというよりは、地域密着型ということで地域に残っているということです。その内容を見ると大鹿の〇〇さんですかね、まさに飲食サービスということで、パン屋さんをやられたり農家レストランをやられたりということで、地元のを活かしながらというふうな若者の望みがあるなど、いうことでそういうことから見られます。

○司会（阿部幸夫） 討論も長くなっているのでポイントを絞って、地域の活性化についてありましたらお願いします。

○産業経済委員（小嶋正彰） 先ほど〇〇さんの方から、大学生の力を活かした集落活性化ということで。ここに並んでいる議員は、報告書をもらい勉強してきました。地域づくりは、若者よそ者馬鹿者と言われていています。大鹿地区におかれましては、過去には山村留学をやっておられた、それから野菜を生かしたという中では、トマトに出荷された方が20数人おられる。きょうもとまを見てきたら山菜がいっぱい出ていました。ここに書いてあるグリーンツーリズムの先進地ではないかなと思っている。妙高市内においても農家民泊だとか、教育民泊だとか、外国の方の受け入れとか積極的にやっているところもある。そういった地域の実例を参考に、この報告書の中の一部でもいいから実現できるように一緒にやっていければいいかなと。近くにグリーンツーリズム推進協議会、大洞原にありますけど、そちらも積極的に取り組んでいるので、ぜひ一緒にいらればありがたいなど。妙高市よくなるんじゃないかなと報告書を見て感想を持ちました。

○司会（阿部幸夫） 時間も迫ってきました。本日は8時20までには終了させていただきたいと考えています。それでは全般にわたって御質問をうけたいと思います。

○市内男性C あの、言いにくいことなんですけど、どうも行政の職員と色々と事業の中でお付き合いしていくと、言葉が悪いんですが、お金がないお金がないと、職員の口からもそういう言葉が出るということは、これをお願いできないかねと言っても、お金がないと言った話で、頼んでみてもダメかなと、そういう雰囲気があっちこちで話を聞く。ですからどういう形の中でそういう話が出ているのか、職員自体もやはり積極的にこの村をどうする、まちをどうするという夢を抱いて入っていると思う。専門職もあるわけですから、あれもしてみたいこれもしてみたいと、積極的な取り組みをする職員も多数いると思う。そういう芽をつままない形の中で、妙高市をどうすればという中で、若い職員の声を吸い上げなければ前へ進まないんじゃないかと思います。先ほど地域づくりと言っても同じことである。話はそれるがこの大鹿地区で、若い人をすぐふやすというわけにはいかないの、年をしたものが助け合いながら、ここで生活するには道路と水の確保ですね、昨年集中豪雨であちこちの用水なり、農道なり河川なりが大変な被害を受けた。妙高市においても激甚災害を受け、その恩恵を受けている。私も当事者として、ここにいる議員からも大変協力をいただいた中で、その立場になると大変なことである。この発生状況がどうゆう流れで、どこへ届け出て、どういう処置をすとかというのが、昨年度の水害でいい経験になった。各地区の区長さん用水組合また議員の方もそれを理解する、その手を打つそのひとつの形ができていないと、大きな災害が起きた時にスムーズに動かないと思う。ぜひとももう一度、昨年の水害を契機にして検証をして、新たな仕組みづくりを我々も協力できるところは協力するので、仕組みづくりを行ってほしい。水害の中で一つ自己負担の問題がある。国の助成事業の中でクリアできればいいが、小さい災害についてはクリアできない。そうすると市の工事となる。現状は地元負担が35%これも色々あると思うが大変自己負担率が高い。これも昔からなっていると思う。それだけの体力がなくなってきた。用水関係については減反によって耕作面積が大きく減っているですから、人数も減っ



たり、面積が減ったりして自己負担率が上がってきている。そこまでかかるんだったらやめちまえとそういう話になる。議会報には一部見直しとの話もあるので、ぜひこの機会を利用して、現場に合った形の市の事業ですね、この辺を一つ御検討いただきたい。大変申し訳ないが、地元にとっては高齢化が進めば進むほどこの問題は切実となります。道路もお願いしたいが、国の除雪ポールはお金がないため外さない。道路の傷みがものすごい。今老人の方は、カートに乗って道路を走るが、事故が起きなければいいのだが、目に余るほど道が傷んでいる。これもお金がないという話になっちゃうんだが、一つ検討いただきたいのは、旧妙高地区は、特にこの樽本から大鹿については過疎地域ということで過疎債が使える地区である。防衛庁の関係もある。もう一度妙高市の現場を見て、決められた助成事業じゃなくて、過疎債あたりをうまく使ってないかと思っている。実質補助率がものすごく高いわけですから、よろしくお願ひしたい。話しが長くなりましたがよろしくお願ひしたい。

○司会（阿部幸夫） 皆さんの方からコンパクトにまとめてお願ひしたい。

○建設厚生委員（渡辺幹衛） 感想も含めてお話をさせていただきます。身近な話からすると道路の話が出た。私もずっと建設厚生委員会だったし、勤めていた時から土木ずっといた。今道路の問題は、もしカートか何かで事故があった場合は、道路管理者の責任は問われる。昔はそんなことはほとんどなかった。私の近所では、矢代川の橋に穴が開いてそこから落ちた。今なら大変である。道路の修繕についてだけ話をすると、連絡をいただければ、次の日には建設課は直しています。連絡をどのようにしたらいいかわからないとの問題もあるかとは思いますが、町内会長や議員にも出番だということでやっていただきたい。先程私の所管ではないが、少子化の問題とか高齢化の問題とかいろいろありました。婚活の問題もありました。私の集落では一時期1割ぐらい世帯数が減った。ここ4、5年の間に復活をしてしました。子供もいます。保育園、小学校もいるんです。ところが小学校はなくなったし、保育園もなくなりそうです。そういう点では集落の寄り合いをするとはしごを外されたという話が、若い人から出てきます。そうすると、ここにずっと住み続けるかどうかと言う不安な点もある。ただ一つ言えることは、皆さんはここに住んでおられるんですし、私も妻は大鹿です。大鹿にもたまに来る。それは春や秋自然の状況が素晴らしい所だと思っています。皆さんもそれで住み続けてると思っています。実際に雪の問題とかがある。今までは個人の問題として考えていた。子供の跡継ぎがいるかどうかというレベルじゃなくて、集落としてどう考えていくかということまで目を広げないと、この問題は解決できないんじゃないかと思う。まちうちでも30年ぐらい前に高齢化で跡継ぎのいないお医者さんが辞めるという話が出たが、その人はそっくり別のお医者さんに建物を譲ってそこで開業して今もやっている。そういうことも考えていかないと。昨日は新井の市役所のところでやったんです。そこで出た意見として道の駅に3億円をかけて、商店街に1800万じゃないかと、金の誓い使い方が違うんじゃないかという話も出た。そういう点ではみなさんの声がストレートに市政に届いてるか、疑問もある。そういう点で皆さんの声を聞かせていただいて、あまり時間的な遅れが無いように市政に反映できるよう頑張っていきたいと思っています。時間の問題でもう1つ申し上げます。もう一つ道の駅の問題とかとまとの〇〇さんからもお話を聞きましたが、5年ぐらい前には売り場面積の拡張とか声が強かった。陳情書も出た。しかし今になってこれから拡張するかと計画を立てるとなると、果たして拡張したところへ品物を出す農家が確保ができるかどうか悩みになっている。市の政策としてはいいことをやってるかもしれないが、タイミングの問題も非常に重要であると感じた。皆さんの声をぜひこんな機会に聞かせていただきたい。きょうはありがとうございます。

○司会（阿部幸夫） そのほか、八木委員の方から。

○建設厚生委員（八木清美） ありがとうございます。台風の災害の件ですが、昨年宮沢議員も動いてくれました。私も動ごかしていただいたんですが、ほかの地区の災害もあった。視察したところでは、あそこが潰れると全部下の方に影響があるということをしかりと見せていただいた。今後も引き続きしかりと執行部の方に伝えるよう

に努力していきたいと思っています。それから道路の件も、今回協議会の方へから要望があったが今回〇〇の〇〇さんの所の道路の拡張の件ですが、ことは実施できるということで聞いている。御安心ください。先ほど大学生の力を活かした集落活性化事業、私も研究発表会には参加させていただきました。この中では村越議員も参加していたと思います。その時に一番感じたことは、ここの地区では非常にいい文化が根づいている。一品持ち寄りということで、持ち寄り会のイベントがずっと息づいている。私は新井から嫁いできた人間ですが、これは最初すごく見聞きした時に、目から鱗で、いいことだなあと感動しました。学生もこのことに感動したとお聞きしました。この持ち寄りイベントは絶やさないでほしい。こちらの矢代とか梨木でもそのような持ち寄りイベントが皆さんでコミュニティーを図っているということも聞いている。ぜひともこれはいいことだと思っている。

○司会（阿部幸夫） ありがとうございます。

○村越委員（村越洋一） 過疎債については国の法律の中で100%出ると指定された地域に対していろんな使い方ができるという風に理解しています。例えばインフラ子育てそういうものに使える。そういったものをしっかりと勉強しながら議会としてしっかりと要求していきたいと思います。

○市内男性C そういうものに使えるのであれば計画的な形の中で使ってもらうことで、妙高市のためになる。

○建設厚生委員（渡辺幹衛） 先ほど申し上げた通り、自分だけではなく隣近、地域のことを考えるようにならないとその地域は残らないようになる。今道路の話があったが、大鹿地区で道路で困ってるのはここだと、ここに道路があれば非常に便利だなと、そこは集落で絵を書いて欲しい。そういうものを持って私たちは手伝させていただければ、建設厚生委員会でも取り組みはどうなんだとその話をきっちりとできる。そうしていただければまるっきり夢物語じゃないと思います。よろしくをお願いします。

○司会（阿部幸夫） お互いに実現に向け、回答もいろいろなところに使えるとの話しもありましたが、その部分については具体的な話しは引き続きとさせていただきたい。時間の関係もあるのであと1、2点質問をお受けして進めたいと思いますが、他いかがでしょうか。

○市内男性D 〇〇の〇〇と申します。一つ質問なんです、今現在他の地区は除雪関係、非常に緻密に行っている。大鹿は特に部落の中の道が非常に複雑で、今現在は特に問題はないが、これからだんだん人口が減ってきますと空家等も増えてくることもあるかもしれない。そのような時に除雪関係については人口減少とともにどのように考えてるかお聞きしたい。

○建設厚生委員（八木清美） 今年度の除雪予算は総額で10億6800万ということで市全体では聞いているが、配分とかそういうところまでは分からない。詳しい方がいるのでちょっと変わりたい。

○建設厚生委員（渡辺幹衛） 除雪の話は、去年の交流会に行った時は妙高高原に行ったとき、最初の出動が合併前は、10センチメートルだったのに合併したら15センチメートルになった。元に戻せという声が多かった。妙高市は合併するとき新井の基準に合わせるということで、その時の議員は承認しちゃったんです。それで雪の質も違うじゃないかという声が出て委員会でもさんざん論議された。今こないだまでの数字は10センチメートル、15センチメートルの問題はあるが、支障がないように最大限努力するという答弁が出て。もし支障があれば言ういただければすぐに対応したい。実際は少なくとも下の方ではしていたと思っている。4月に支部長さんの除雪の反省会でアンケートもとっている。もし記載するんだったら記載してほしい。今まで市道の除雪というのは、障害物を置いてはいけないことになっている。道路管理者は市ですから市がやらなければいけないのだけど、実際は冬期間の交通量が少なくなってくると、切っているところも多い。でも市道である限り、一軒でも平場ではやっている。こちら辺でも隣が空き家になったからといって除雪が切られることはないと思います。そういう方向で取り組んで、そこは金がかかっても住みよい街ナンバーワンですから、少なくとも除雪がしっかりして冬期間のお勤めに行くとか学校に

行くとか支障がなければ、ここ全体でみれば、去年台風21号の問題もあったが、最近は災害は少ない所じゃないかと。他の九州や四国の大雨、大分では2000年も滑らなかったところ卑弥呼のところじゃないかというわれたところだって滑るわけですから、そういうんでは、きちんと対応できるように私たちも頑張りますから皆さんの声を出していただきたい。

○司会（阿部幸夫） もう一人かた。どうぞ。

○市内男性E ○○の○○と申します1、2点だけ。一点は具体的なことでテーマに戻させてもらって若い人が住みやすい地域づくりですね、私個人的な考えですが地元がいい例がある。妙高の大洞原にあるクライנגルデンは、あれの若者世代クライングルデン、大きなアパートをつくるよりも簡単できるのではないかと。そういうものをあるところを決めて、そういう人たちを募集して、旦那なんかは単身赴任でもでもいい。要は直接子供に係る人たちが集中して住めれば、子供が一人であるよりは二人三人賑やかな環境にもなる。昔はお年寄りと一緒に住んで、年寄りに任せる今はそんな時代ではなくなっている、インフルエンザとかの流行り病がどっから来てるかわからないが、昔の感覚で接しているといると今の子供達はそんな感じには対応できなくなっている部分もある。一つ具体的なこともあっていいのではと思っている。もう一点は、住んでいる人をもっと自由にさせて欲しい。私はそういう願いがあ。逆に地域に落とし込め地域で行ってくれという風潮がすごく感じる。やってくれと言ってやるのはいいが、住んでいる人はそれ以外のことでいっぱい。いっぱいというネガティブな感じなんですけども、せっかく好きなことができて、田んぼも好きでやっている。野菜づくりも好きでやっている。それ以外にあれもこれもはっきり言って地区の班とか区の行政との絡みがいっぱい降りてくる。それにかかる時間がすごくもったいない。そういう時間を使いたくない。自分はここを気に入って好きなことをやりたいのにそういうのがどんどん入ってくる。人口が少なくなってきたにもかかわらず多い時のやっていることがそのまま何も改善されずきている。得手不得手があると思うがこんな大変だということも押しつけられているような気がしてならない人にはどんどんやってもらって構わないが仕方がなく回ってきたのでやらなければならないという部分がすごく感じる。ちょっとずつでも変えていって、せっかく残っている人をもっと自由にさせてほしい。お願いします。

○産業経済委員（小嶋正彰） クライングルデンについて大洞原にある。ねらいは都市との交流を通じ、てそれを移住定住につなげていこうというのか大きなねらいで始まったと思います。今も待機者がいるぐらい希望も多い。実際に妙高市に移住された方も何人か出ております。ただ若い人たちというのが本当はそうやってほしいが、あそこは農園つき別荘というぐらいの感じなものだから住所を移せない。そうするとなかなか若い人たちそこで生活する、仕事を求める子供を育てるといのは制度上難しいものがある。そういった一つの交流から移住定住へのきっかけづくりが限界かなと気がしている。もう一つはああいった形で各地域にある空き家がいっぱいある。立派な家が空いている状況がある。そういったところをうまく活用できないのかな、例えばお試し居住みたいな形で。そのために住宅だけではなくて地域の受け入れ体制も同時に行っていかなければならないと思う。実際に私の地域でも空いているお宅に移ってきて、農業をやりたいということで農業をやってくれて、去年子供も生まれた事例がある。地域の方で空き家を活用して受け入れする体制づくりも、これからは必要ではないかとクライングルデンを見て感じているところです。

○司会（阿部幸夫） もう一点あったかと思えます。

○総務文教委員（村越洋一） もっと自由にしてほしいという、行政の仕事が地域にどんどんおりにきているという話だったかと思えます。やはり人口が少なくなるとそういうことはどこの地域でも起こってきていると思います。私どもの話で恐縮なんですけど、瑞穂地区で昨年全住民アンケートを取りました。中学生以上同じ家の中でみんなでやろう。回答率は90%以上を超える非常に大きい数字で、皆さんの意見をいただいた。その中でやはり仕事が多いとかい

ろんな意見があった。その中でちゃんとした数字として出てくると自分のこととしてはっきりとわかるということもあって、そういうことがきっかけとなって、地域が変わるきっかけづくりになると、一つ参考にさせていただければと思います。その発端は、集落支援員さんがサポート人がいて、そういった方がアンケートをしたらどうかという話を頂き勧めたもの。大鹿の皆さんも地域サポート人という制度があるので、そういった形を活用しながらそういった事業や組織の棚卸しをやってみるのもいかがかなと思う。参考までに。

○司会（阿部幸夫） ありがとうございます。

○建設厚生委員（八木清美） 先ほどクライנגルデンということで若者向けのクライングルデンでしっかりしていくという話ですが、他市の事例で見聞きしたので非常に安く他市他県から募集して、集合住宅のように住んでいただいて、その代わり消防団に入っただく地域の仕事を積極的に関わっていただくを、条件にしてその代わり非常に安く入っただく、支援の仕方を手厚くするというのを見聞きしたので、今度質問してみたい中の一つで、そういったものもいいのかと感じているところです。若い人が他から移住してきている方がいるので、その方の意見もお聞きしていただきたいと、思います。

○司会（阿部幸夫） ありがとうございます。時間もあつという間に定刻の時間を過ぎました。皆さんの活発な御意見を意見交換をさせていただいた。時間は尽きないかどこかで区切りをつけ、また次に繋げていくという私たちもそのようにしていきたいと、思っています。本当に予定した時間を過ぎていますので、本日の議会報告意見交換会をここで閉じさせていただきたいと思います。大変不慣れな司会で御迷惑をかけた点多々あったと思いますが、無事このように終了することができました。改めて本日御参加いただいた皆さんに感謝申し上げ本日の議会報告意見交換会を終わりたいと思います。お互いの労をねぎらって拍手で終了したいと、思います。どうもありがとうございました。もう一つ最後にお願ひがあります。お帰りの際は事故をしないように十分気をつけて帰っていただきたいと、思います。もう一つはお手数ですが皆さんにアンケートをお配りしましたぜひとも御協力をいただきたいと、思います。記入後机の上に用紙を置いてお帰りがいただければとお願ひいたして終了させていただきます。ありがとうございました。

閉会 午後 8時26分